

「台風 15 号災害に係るアンケート結果報告」 【令和 2 年 3 月】



1.目的...介護保険サービス事業所及び調剤薬局等に対して、台風 15 号災害においての被害状況及び情報共有が必要な情報を確認するとともに、情報システムの周知度や災害時における活用方法等について把握するためにアンケート調査を実施した。

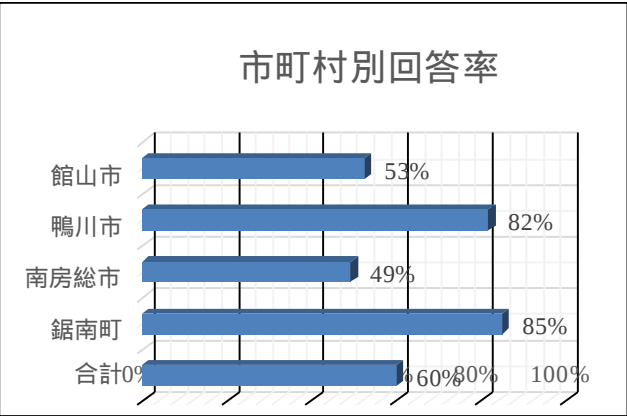
2.関係団体との調整...アンケートを実施するにあたっては、安房 3 市 1 町で活動する関係団体等への説明を実施し、アンケートへの協力やシステム構築について周知を図った。 安房医師会/安房薬剤師会薬業会/安房しあわせネットワーク/南房総市介護支援専門員連絡会/鋸南町介護サービス事業所協議会/鴨川市介護サービス事業所協議会 * 本事業を推進している安房医師会に協力を得ることができた。

3.実施方法...○実施期間 令和 2 年 2 月 13 日（木）～ 3 月 6 日（金）

- 配布方法 メール及び郵送等にて各事業所宛に送付
- 回答方法 web 及び紙での回答 【約 9 割が web 回答】
- 配布数及び回答率

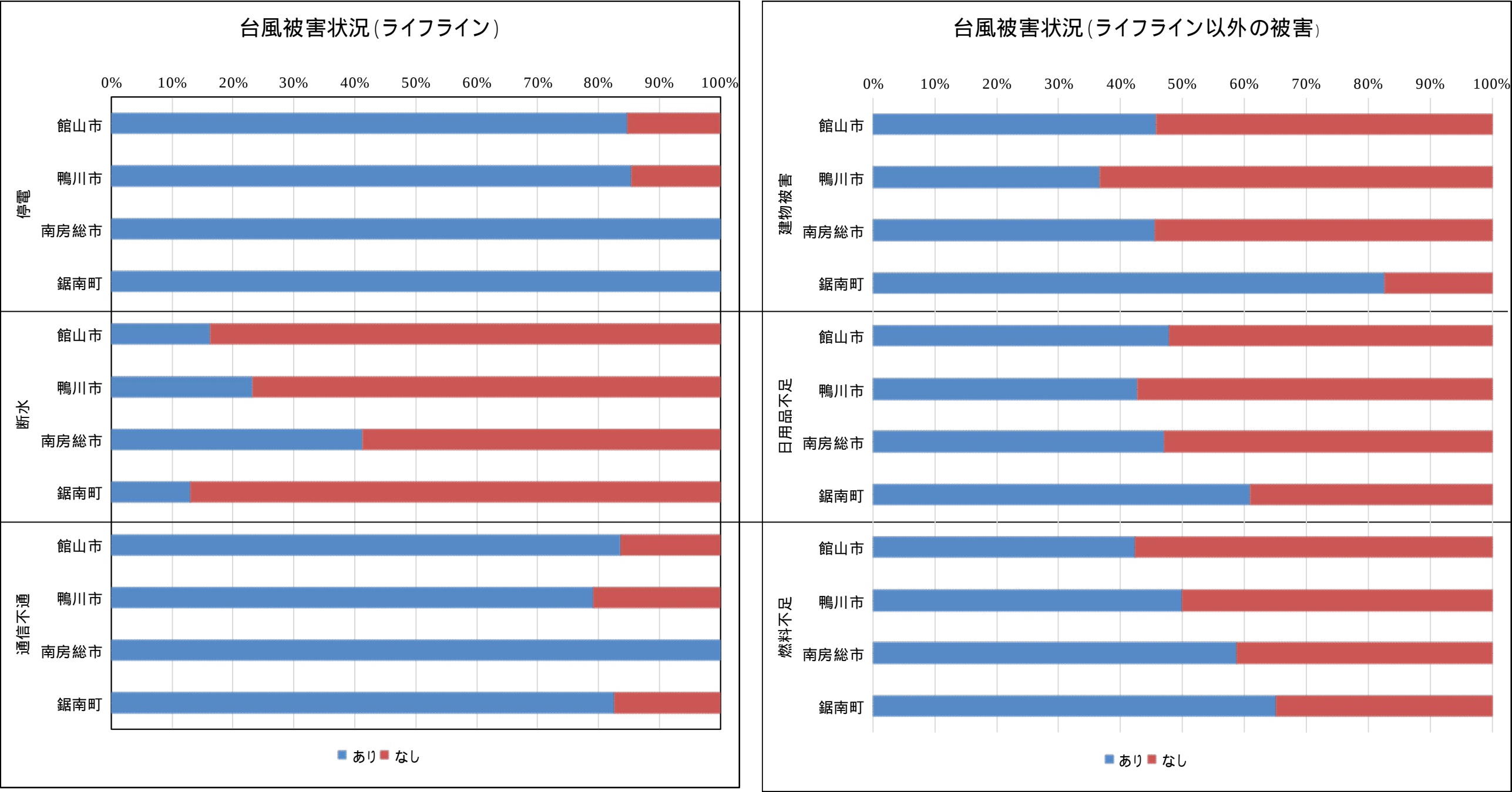
事業所数	居宅 支援	訪問 介護	訪問 入浴	通所 介護	通所 リハ	訪問 看護	訪問 リハ	福祉 用具	短期 生活	短期 療養	地域密着								特別 養護	老人 保健 施設	療養 型	有料 ホーム	サ高 住	ケア ハウス	養護 老人 包括	地域 包括	調剤 薬局	計
											通所 介護	認知 デイ	小多 機能	看多 機能	夜間 訪問 介護	GH	特別 養護	特定 施設										
館山市	25	17	1	8	8	7	5	5	5	6	16	5	2	1	1	7	-	1	4	4	2	7	1	-	1	3	32	174
鴨川市	16	15	-	5	4	7	1	3	3	1	7	1	-	1	-	4	1	-	3	1	4	3	2	1	1	2	14	99
南房総市	26	15	-	11	6	2	3	1	10	5	10	3	3	-	-	6	1	-	7	4	1	1	2	2	-	2	17	135
鋸南町	7	4	-	4	-	1	-	-	1	-	3	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	4	27
計	74	51	1	28	18	17	9	9	19	7	36	9	5	2	1	18	2	1	15	9	7	11	5	3	2	8	67	439

	事業所数	回答数	回答率
館山市	174	92	52.6%
鴨川市	100	82	82.0%
南房総市	138	68	49.3%
鋸南町	27	23	85.2%
合計	439	265	60.2%



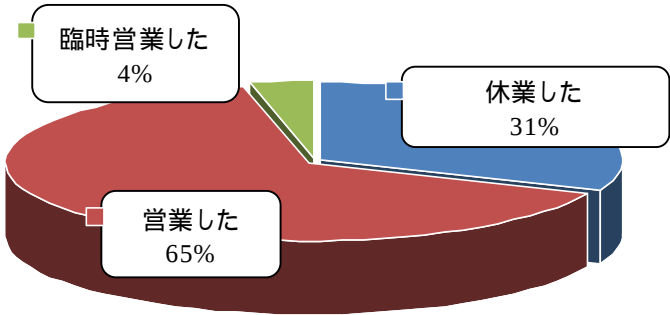
4.アンケート実施報告

台風 15 号の事業所への被害について



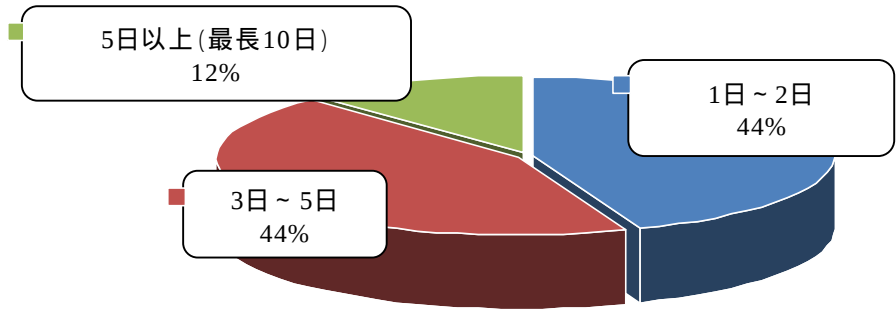
発災後の営業について

発災後の営業について



	休業した	しなかった	臨時営業した
館山市	28	59	5
鴨川市	28	53	1
南房総市	20	47	1
鋸南町	7	14	2
計	83	173	9

休業した期間



【休業した理由】

- ・通常の営業内で回り切れなかった。
 - ・停電のため電子薬歴などのコンピューターが動かなかったため。
 - ・停電と建物破損のため。
 - ・停電、断水によりライフラインの確保が難しく、また道路も瓦散乱の為送迎が難しかった。
 - ・スタッフの出勤不可だったため。
 - ・送迎が危険であった為と停電、断水等の被害により、入浴・食事等のサービスが提供できなかった。
 - ・土砂災害の為送迎困難、断水の為食事、入浴、トイレの支援が困難の為
 - ・停電、回線不通（電話、FAX、光）、店内雨洩り
- * 停電と回答した事業所多数

【臨時営業した理由】

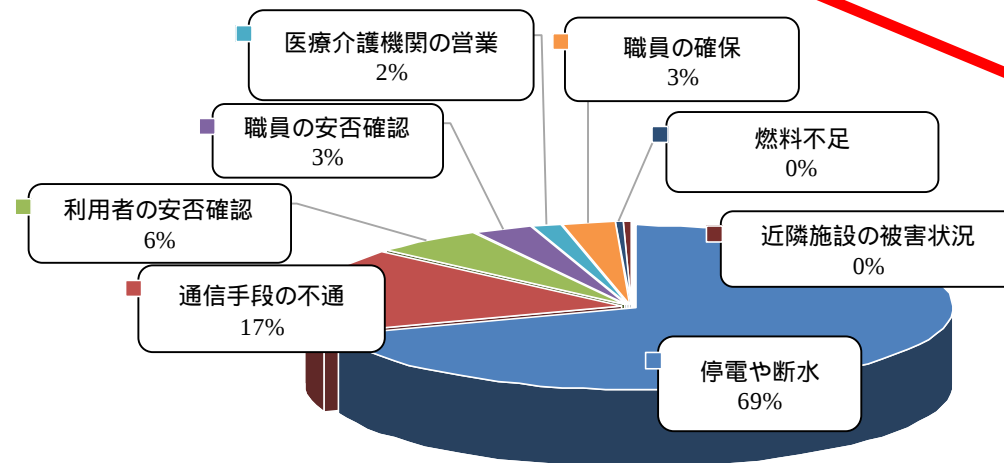
- ・利用者の安否確認や各種手配等の支援するため
- ・最低限の電力を使用するにあたり燃料確保をするため。
- ・家族都合でどうしても利用しないといけない利用者がいたため。
- ・通常とは違った訪問対応をして、通いや泊りを調整した。
- ・事業所が停電により医療機器や空調が使用不可。利用者が環境の良い方の場で過ごすための対応。
- ・住民の方に風呂を開放した（数カ所同様の回答あり）
- ・利用者の安否確認の訪問やサービス調整のため。
- ・優先順位を考えての訪問に切り替えた。
- ・停電の為、同法人の他施設を借りて臨時営業を行った。
- ・**停電中 OTC 医薬品を販売したため**
- ・**定期薬の薬不足の患者対応や臨時薬の交付の為**
- ・**処方元からの要望**
- ・**近隣医療機関が診察したため**

考察...発災後の営業は約 3 割が休業し最長では 10 日間程度の休業を余儀なくされた。休業の原因としては、ライフラインの寸断や従業員が出勤できないことが挙げられる。また、停電や通信手段が断絶したため被害の状況が分からず、危険性を考慮して休業となったことも理由として挙がっていた。

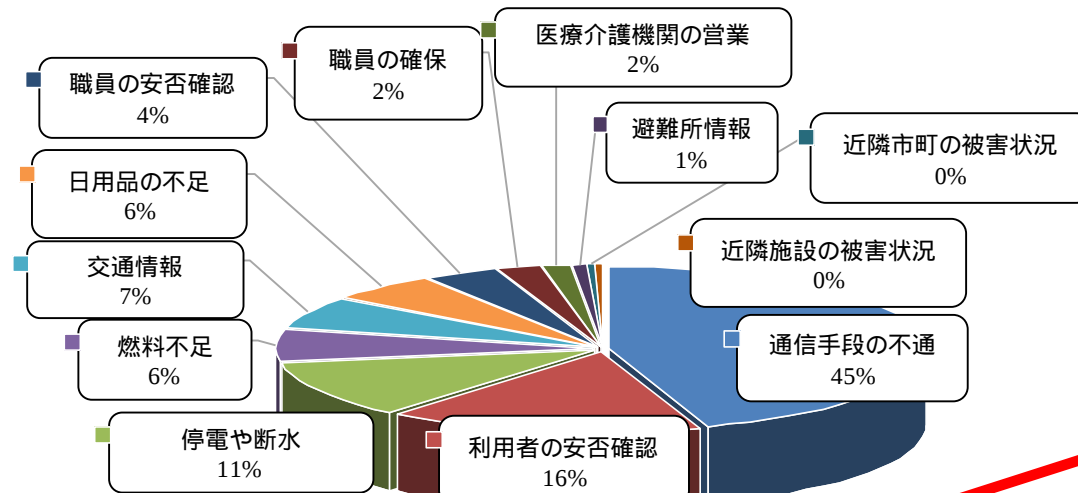
また、臨時営業を行った場合としては利用者の安否確認のほか、地域住民のために入浴施設の開放や事業所の復旧作業にあたり数日間再開している。調剤薬局は医療機関による診療再開や被災した住民の臨時薬の処方を行っている。被災により避難した住民の健康維持のためには薬は重要であり、災害時における臨時薬の処方は大規模災害の課題

災害時における業務継続について

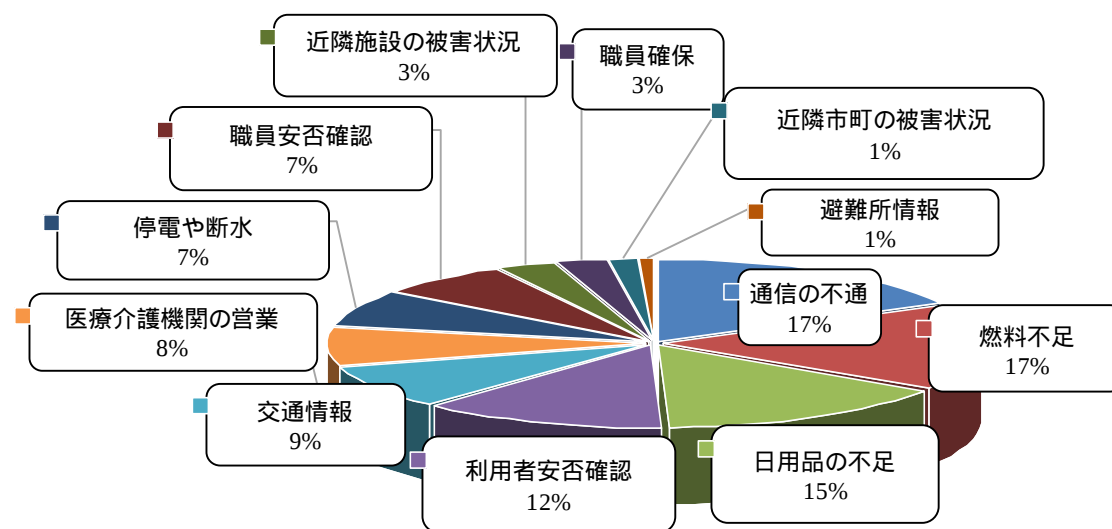
支障となったこと(第1位)



支障となったこと(第2位)



支障となったこと(第3位)



【第1位】

考察...災害において事業所等が業務を継続するためには、ライフラインは必要不可欠である。特に入所施設においては、ライフラインの断絶により多くの入所者が生命の危険にさらされることとなる。また事業所にてライフラインが断絶されたとなると在宅生活者も同様であり生命の危険にさらされるのは同様である。
ライフラインでも電気の不通は、事業を実施する上での機器等が使用できないばかりか、通信手段も不通となり情報の入手が不可能となる。

【第2位】

考察...ライフラインとともに通信手段の確保は必要不可欠であるが、通信手段が確保できないため利用者とともに従業員の安否確認に支障が生じてくる。電話等を利用することが多いが、通信手段が確保できないため利用者は訪問する必要がある。訪問するとなると、安房地域の地域制から車両で移動しないと対応不可となるため、燃料不足や道路情報がなく支障が生じたと推測される。
従業員がいないと営業できないため、通信手段の断絶時の対応を考慮しておく必要がある。

【第3位】

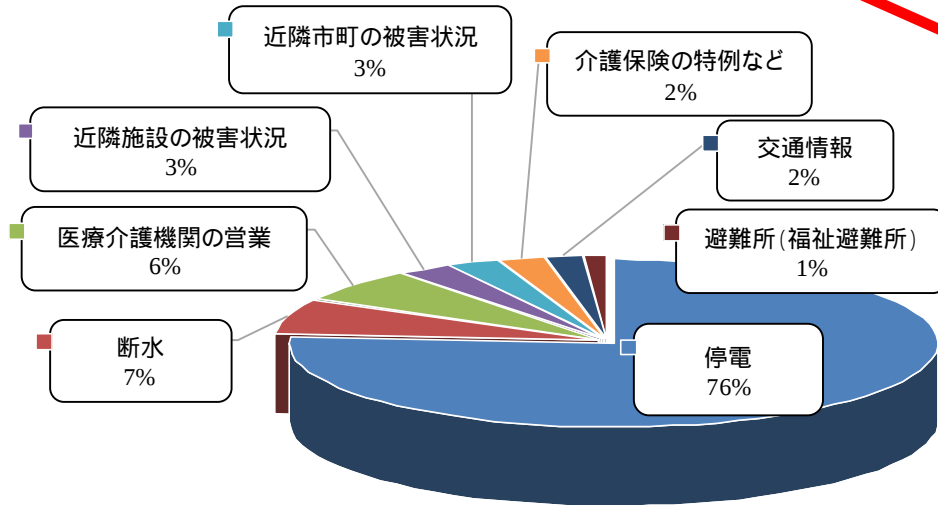
考察...ライフラインが確保されて、様々なニーズが寄せられると必要となってくることは多種多様となってくる。利用者の安否が確認された後には、必要な生活支援を実施するため他機関の営業や必要物品の購入など、個々の必要性を見ながら支援していくことが求められる。また、このように多様なニーズに対応するための情報収集の仕組みづくりや、事業所同士の連携についてもまとめられてくる。

【まとめ】

考察...災害において事業を継続していくためには、ライフラインのほかに従業員が確保できないと事業所の運営をしていくのは不可である。災害でのライフラインの断絶や通信の不通などに備えて、日ごろから対応について検討しておくとともに関係機関との連携方法を検討しておく必要がある。また、ライフラインの復旧は専門機関でないと行えないため、その他の項目で自分たちができることについて検討や準備しておくことが必要と考える。

災害時に得たい情報

災害時に得たい情報(第1位)



【第1位】

考察...災害時において事業所等が業務を継続するためには、その中で停電については一番重要であるとの回答を得た。高齢者の介護やパソコン関係を動かすためには電気は必要であり、停電の状況等が不明であれば業務は滞ることとなる。施設及び在宅で高齢者等の介護のためには必要不可欠であり、長期間の停電は生命の危機となる可能性も大である。

特に台風15号の災害においては停電が長期間に及んだことからのこのような結果になったと思われる。

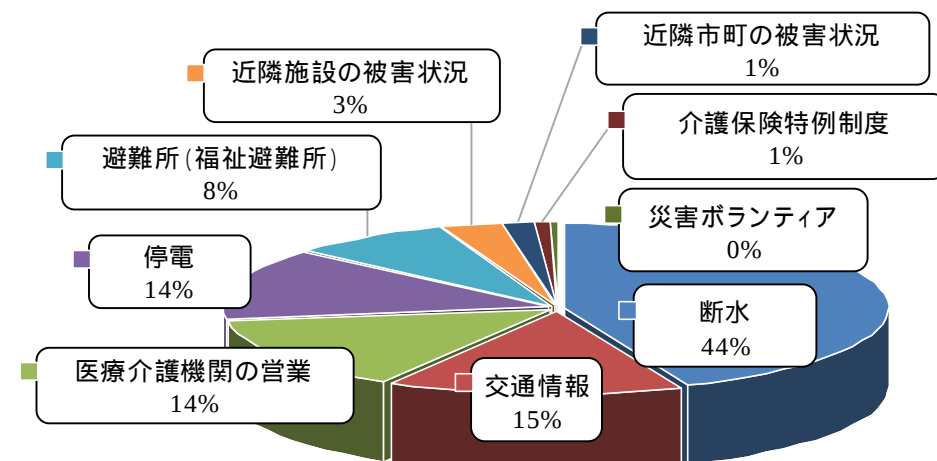
【第2位】

考察...災害時においてライフラインの復旧は事業所の継続とともに、利用者等の生活支援に欠かせないものである。電気のほかに水や、訪問をするための交通情報とともに、他機関の営業状況が必要とされる。事業所を運営するにあたっては、他事業所との連携は必要不可欠であり他機関との営業状況等が得られないと利用者の生活維持が厳しくなるとされる。また、

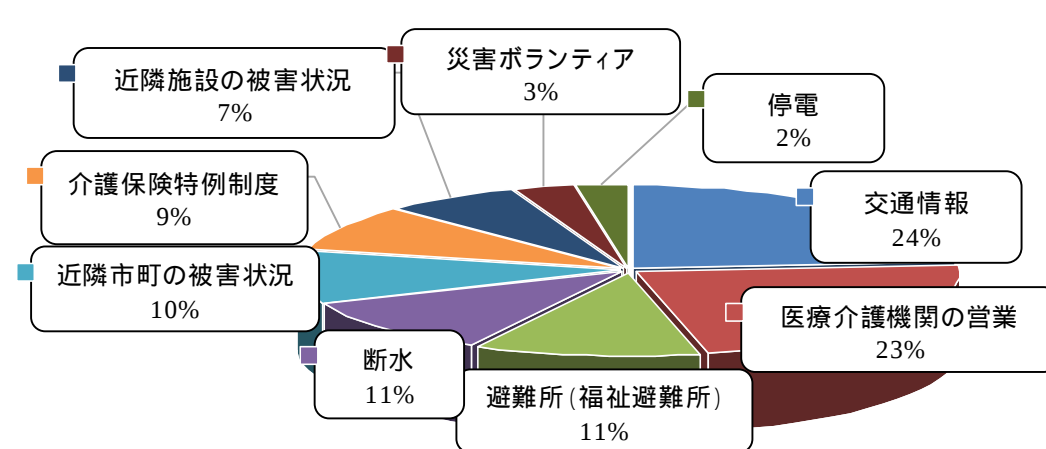
【第3位】

考察...ライフラインが確保されてくると様々なニーズに対する情報が必要となってくる。ライフラインのほかに、他機関の営業や避難所など個別支援の充実に向けて取り組んでいくこととなる。また、居住地だけでなく広域的な被害状況等を把握し、必要によっては支援を求めていくことが必要となる。

災害時に得たい情報(第2位)



災害時に得たい情報(第3位)

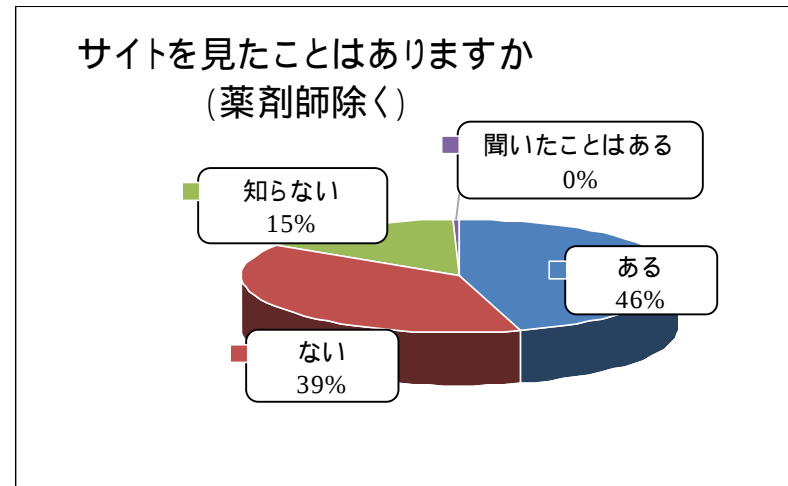
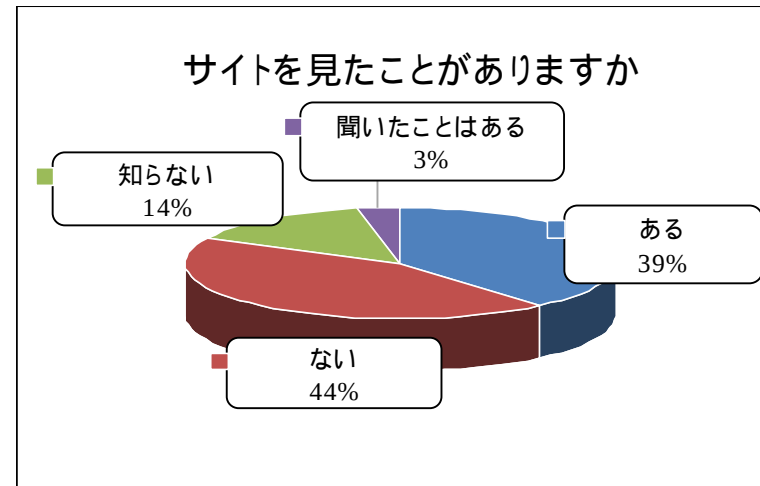


【まとめ】

考察...災害において得たい情報としては、まずはライフラインの復旧情報である。ライフラインが復旧しないと事業所の運営や利用者等の生活維持が困難である。

また、ライフラインが復旧すると様々な個別ニーズが生じてくるため多岐にわたり情報が必要とされる。災害において情報共有するためには、災害の復旧状況に応じた段階を整理し必要とされる情報を選定して情報提供することが必要と考える。

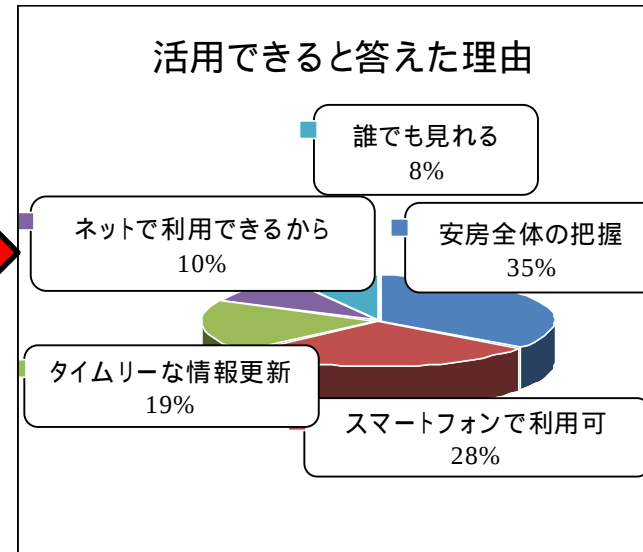
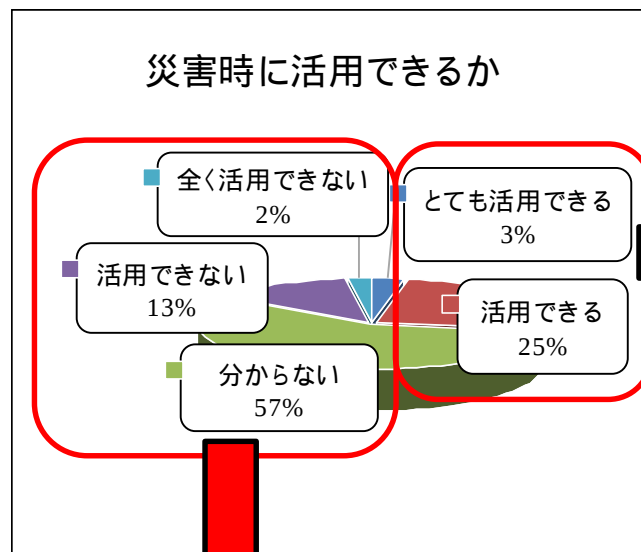
ネットワークサイトの周知度



【ネットワークシステムについて】

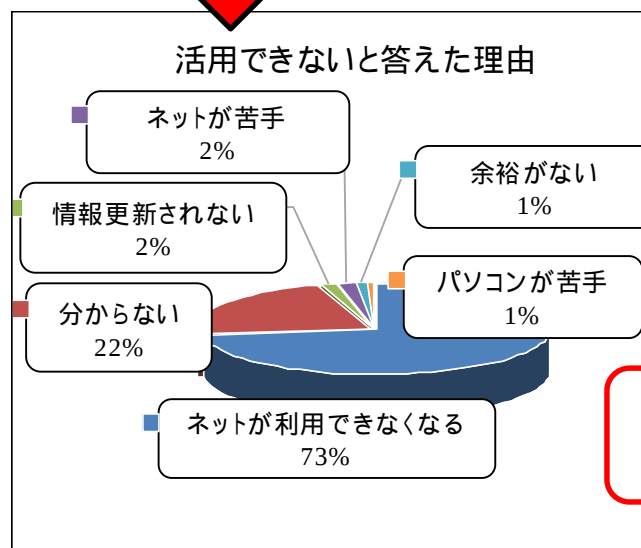
考察...昨年 11 月からネットワークシステムの運用を開始し約 4 カ月が経過している。各市町の等の研修会等を通じて周知を図っているが、全体の 5 割程度しかシステムの存在を知らないことは判明した。薬剤師の除いた結果でもほぼ同様であるため関係者への周知方法について検討していく必要がある。また、事業所の一部の職員や事業所内で周知が図られていない可能性も否定できない。

災害時における情報ネットワークの活用について



【自由意見】

- ・災害時にネットワークが利用できない場所があるかもしれませんが、デイを受け入れられない施設の名称、断水、スーパーの営業を掲載してくださるとありがたいです。
- ・迅速に正しい情報が入手できるシステムを期待いたします。
- ・災害時、情報を共有し協力し合えるシステムができると助かります
- ・インターネットだと災害時停電や携帯が繋がらなくなってしまった場合だと使えない。
- ・通信障害でネットワークシステムが使えるのか不安。有事で IT を取り巻く環境が停滞した状態での業務の困難さを
- ・情報共有ツールとして多くの人が活躍出来る様に、最新情報を沢山アップして欲しいです。
- ・医師会が中心になりシステムを充実して頂くことを希望致します。
- ・緊急ショートを受け入れ施設の情報がわかると有難いです。
- ・介護職が便利に利用できるシステムになってほしいと思います。
- ・多くの事業所が活用するように周知を徹底することが必要であると考えます。
- ・安房地域の現在の医療、介護情報、総合事業などの状況、介護関係書式や制度などが集約されるようなサイトを希望します。



自由意見については次ページ参照

【自由意見】

- ・事業所を訪ねたりした対応をしたが、緊急性の事案では地域での対応が必要となる。
- ・システムというツールの目的、メリットが見えない。介護情報の掲示板だけであれば必要性を感じない。
- ・活用している人数がすくなければ機能は難しいかと思います。
- ・いざという時に、確認するネットワークを一つにして周知してほしい
- ・災害時に利用できるシステムなら横で繋がれると思います。
- ・停電やシステム障害の発生時には活用できないと思う。他複数
- ・システムの周知がされていなので、広く周知する方が良いと思う。
- ・災害時に強いネットワークなら横で繋がれると思います！
- ・ネットワークを利用したことはありませんが活用方法を理解し活用していきたいと思います。
- ・台風災害では通信の遮断がありましたがその中でネットワークシステムがどのように利用できるか不安です。
- ・その様なネットワームシステムがあった事を知らなかった。今後は使用してみたいと思うがどのように周知していますか？
- ・停電・回線の問題でネットが使えないので、その経費をライフラインの復旧に回した方が被災者側としては助かる。
- ・これ以外の方法でシステムが運用できるのであれば役に立つと思うが今のままでは意味がない。
- ・災害時、インターネットに接続できる（Wi-Fi等）環境があると良いと思います。
- ・停電になると通信はほとんど使えなくなる。停電時の対応を教えてください。
- ・台風15号の際の長期の停電の影響、電波障害により通信手段がなかった。インターネットは使えないので、根本的に考え直すべきではないかと思います。
- ・通信システムがダウンした状況で事前に周知徹底することが出来れば有効。復旧後、十分に活用できるようになると考える。
- ・停電が長期化するとインターネットが利用できない可能性が高く、システムを活用するのは困難だと思う。
- ・災害時にどの通信手段が使えるかわからないし、翌日も使える保証がない。
- ・タイムリーに正確な情報がほしい
- ・停電が長くPCを使って情報を得る事ができなかった。事業所のPCで登録している場合は他のツールも必要と考えます。
- ・ネットワークシステムを充実させることは早急に必要です。台風15号のときのように通信環境が不通になった場合の手段も考える必要がある。
- ・災害時に正確な情報がタイムリーに見れると助かります。
- ・災害時はあまり活用が期待出来ないと思う。職員が目に出るシステムなら良いが代表者だけとの連絡方法なら他の方法でも充分。
- ・ネットワークシステム自体は素晴らしいが、被災時に停電や通信障害があった際の対応が心配。
- ・施設側からの情報提供がうまくできない
- ・今回のように鴨川市では回線不通（物理的な断線やシステムの異常等）で、長いところは約10日間以上、携帯もインターネットもFAXも使えない。
- ・医師会、薬剤師会等と同じソフトでのネットワークで、システムは作っておくべきだと思います。
- ・情報を得る1つの方法として考えている。
- ・検索すると「太陽会」または「安房介護一揆」のことと印象付けられました。

【まとめ】

災害におけるネットワークシステムの活用方法についてアンケートを実施した。昨年の台風 15 号においては安房地域は甚大な被害が発生し、介護サービス事業所の多くは被災しながらも地域の高齢者や地域住民に対して支援を行った。その中で情報共有が必要な情報については、災害発生後についてはライフラインの復旧が最優先であり復旧が進むにあたり個別ニーズに対する内容へと変更していく。災害時において情報提供をしていくことは必要であるが、復旧状況等により情報提供する内容を変更していくことが必要であるとする。

安房地域介護情報ネットワークシステムの周知は約 50%程度であり、周知を図ったつもりではあるがまだ多くの関係者には周知が図れていなかった。また、周知が図れていないこととともに、システムの活用方法等について実証できていないことから、災害時におけるシステムの活用については低い結果となったと推測される。まずは、システムの周知とともに関係者がどのような情報が必要とされるかを把握しながら運用していくことが肝要であると思われる。また、広域的な情報共有の必要性については理解いただいているため、情報を集約するメリットや多職種との活用方法についても検討していく事を考えることが必要である。